

JIS

プラスチックのデュロメータ硬さ試験方法

JIS K 7215-1986

(2006 確認)

昭和61年2月1日 改正

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

著作権法により無断での複製、転載等は禁止されております。

主務大臣：通商産業大臣 制定：昭和 54.1.1 改正：昭和 61.2.1 確認：平成 11.10.20

官報公示：平成 11.10.20

原案作成協力者：プラスチック標準試験方法研究会

審議部会：日本工業標準調査会 高分子部会（部会長 山口 章三郎）

この規格についての意見又は質問は、経済産業省 産業技術環境局標準課 産業基盤標準化推進室（☎100-8901 東京都千代田区霞が関1丁目3-1）にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

プラスチックのデュロメータ硬さ
試験方法

K 7215-1986

(1999 確認)

Testing Methods for Durometer Hardness of Plastics

1. 適用範囲 この規格は、プラスチックのデュロメータ A 硬さ及び D 硬さを測定する方法について規定する。この場合、原則として、デュロメータ硬さの範囲は、A 硬さ及び D 硬さともおよそ 20~90 とする。ただし、プラスチックフィルム、テープ及びフォームプラスチックには適用しない。

- 備考
- この方法によって得られた硬さは、押し込み硬さの一種であって、試験荷重負荷時のくぼみ深さから求められるものである。したがって、デュロメータ硬さの数値は、同じ押し込み硬さであっても試験荷重除去後の残留くぼみ深さから求められる JIS K 7202 (プラスチックのロックウェル硬さ試験方法) に規定するロックウェル硬さの数値とは、常により対応関係があるとは限らない。
 - この規格は、プラスチックを対象にしたものであるが、測定可能な硬さの場合には、エラストマーの硬さ試験に用いてもよい。
 - デュロメータ硬さ試験は、品質管理に用いるのが適している。
 - この規格の中で { } を付けて示してある単位、数値及び計算式は、従来単位系によるものであって、参考として併記したものである。

2. 用語の意味 この規格で用いる主な用語の意味は、JIS K 6900 (プラスチック用語) 及び JIS Z 8103 (計測用語) によるほか、次のとおりとする。

- デュロメータ硬さ** 圧子を用いて、くぼみ深さに対応して変化する試験荷重を試料に負荷し、生じたくぼみ深さ h から求めた値。
なお、圧子の種類、試験荷重及び硬さ算出式は、表による。
- デュロメータ** デュロメータ硬さを測定する試験機。
- タイプ** デュロメータは、圧子の種類及び試験荷重の組合せごとに固有の名称があり、その名称をタイプという。タイプの内容は表による。

引用規格: JIS A 5757 建築用シーリング材の用途別性能

JIS A 6021 屋根防水用塗膜材

JIS K 6718 メタクリル樹脂板

JIS K 6900 プラスチック用語

JIS K 7100 プラスチックの状態調節及び試験場所の標準状態

JIS K 7202 プラスチックのロックウェル硬さ試験方法

JIS Z 8103 計測用語

JIS Z 8401 数値の丸め方

JIS Z 9041 測定値の処理方法

対応国際規格: ISO/DIS 868 Plastics and ebonite—Determination of indentation hardness by means of a durometer (Shore hardness)

関連規格: JIS Z 8203 国際単位系(SI) 及びその使い方